

号外

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

2017年(平成29年)

6月12日(月)

発行所 琉球新報社
郵便番号 〒900-8525
那覇市天久905番地
©琉球新報社2017年

大田昌秀氏死去

元知事、基地縮小訴え

92歳 沖縄戦体験、平和の礎

鉄血勤皇隊として苛烈な沖縄戦を体験し、県知事や参院議員などを歴任、基地問題の解決や平和行政の推進、県経済の発展などに取り組んだ大田昌秀(おおた・まさひで)氏が12日午前11時50分、那覇市内の病院で死去した。92歳。久米島町出身。

大田氏は1925年生まれ。学し、後に金門クラブの会員。1990年に45年、県師範学校在学中にもなった。68年に琉球大教授。革新統一候補として県知事選に立候補し、現職だった故・西銘順治氏を破り、日本復帰後、4

代目の知事となり、2期務めた。歴代知事が問われる「沖縄の心」について「平和を愛する共生の心」と表現したことで知られる。

任期中の95年には平和の礎や県公文書館を建設し、県平和祈念資料館の移転、改築にも着手した。96年には、基地のない沖縄の将来像を描き、沖縄の自立的発展を目指した「国際都市形成構想」を策定した。さらに、段階的に米軍基地を全面返還させるとした「基地返還アクションプログラム」をまとめ、国に提案した。

基地問題を巡っては、歴代知事では最多の計7回訪米し、基地の整理縮小などを直接訴えた。95年には、米兵による少女乱暴事件が発生。地主が契約を拒んだ軍用地について、地主に代わって土地調査に署名押印する代理署名を拒否し、国に提訴された。

研究者としての顔も知られ、とりわけ沖縄戦や高等弁務官の調査研究に力を注ぎ、住民視点から沖縄戦とその後、の米統治下時代の実相を広く世に伝えた。



特定秘密保護法案の危険性を指摘する大田昌秀氏(元沖縄県知事) 2013年11月29日、那覇市久米の沖縄県青年会館ホール



90年 最終講義

知事選出馬のため琉球大学を辞職する前に最後の講義に臨む大田昌秀氏=1990年3月15日、琉球大学



90年 初当選

県知事選に初当選し、カチャーシーする大田昌秀氏=1990年11月18日、那覇市の選挙事務所



90年 初登庁

知事選に初当選し、県庁初登庁で職員から花束を受け取る大田昌秀氏=1990年12月10日、県庁

93年 フジモリ氏と会談

フジモリペルー大統領が大田昌秀知事を訪問=1993年6月5日、県庁



沖縄戦原点に平和希求

大田氏の功績、写真で振り返る

95年 県民大会

「米軍人による少女暴行事件を糾弾し日米地位協定の見直しを要求する県民総決起大会の壇上で「幼い少女の尊厳を守れなかったことを、心の底からおわびしたい」と述べる大田昌秀氏=1995年10月21日、宜野湾市



96年 クリントン氏と会談

橋本首相主催の昼食会後、クリントン米大統領と話す大田昌秀県知事=1996年4月18日、都内のホテル(代表撮影)



96年 県民投票

県民投票で1票を投じる大田昌秀氏=1996年9月8日 大田氏(左)から手渡された県民投票の結果に目を通す橋本龍太郎首相=96年9月、首相官邸



98年 海上ヘリ基地案反対表明

海上ヘリ基地反対を表明する大田昌秀知事=1998年2月6日、県庁



96年 代理署名訴訟

代理署名訴訟の最高裁審理で陳述するために、那覇空港を出発する大田昌秀氏=1996年7月9日、那覇空港

